

国語部門

総評

本年度も昨年に引き続き、読み手に伝えるために重要な「文章構成能力」の学年との合致という点に着目し、選考の基準としました。作品からは、子ども達の「情報」の読み解き方、リテラシーの必要性を強く感じます。正確に読み解くことと同時に、背景や立場、経過などを読む視点がないと、あふれる情報を一定の方向からしか捉えることができません。戦争・平和・幸福・福祉・環境などの複様な背景や多様な考え方がある話題を選ぶことが多くなる小学5年生から中学生には、特にそれを感じます。また、コンクール応募作品にもかわらず、基礎的な原稿用紙の使い方、段落の概念など、やや不十分な面を感じました。今後は、これらの課題に意識的に取り組むことで、子ども達の気持ちにより伝わる作品が増えることが期待します。

賞 文部科学大臣奨励賞

『西の魔女が死んだ』を読んで

広島県 山陽女学園中部部 2年
葛西 美波

大好きな人に「大好き」と伝え、「アイノウ」で答えてもらうことが安心する幸也。

この物語の中で「死」はつの大きなテーマになっていると思います。(中略)

ふと浮かんだのが、母のことです。母は、朝、どんなに私と喧嘩していても、私が家を出るときには必ず玄関までやてきて、笑顔で「いつつしやい。」と送り出してくれます。そのおかげで私は、毎朝気持ちよく出かけることができます。私はそんな母を前から不思議に思っていました。そこで、この前、母に思い切って「どうして朝喧嘩していても、笑顔で送り出すの？」と聞いてみました。すると、私は、母の行動に、ちゃんと理由があったことを初めて知りました。抜粋

小説の主人公まの姿に、等身大の私を見、まいがおはあちゃんとのお出合いと葛藤を通して精神的に成長する過程を正確に読みとっています。

『意志の力』愛するあなた「感謝する」と「言葉で表現すること」避けられぬ死からの生の再発見などを、自分の問題として受けとめ、家族の大切さを改めて見直すことが出来たことが書かれています。自身の家族に対する絆の深め方へつながっていく展開からは、小説に対する世界観の広がりがかがえます。また、美波さんの真つ直ぐな感じ方や家族の絆の発見などが、いきいきしたリズムとともに伝わってくる作品です。

賞 子どもの文化・教育研究所 理事長賞

目指せ三十秒

徳島県 鳴門市板東小学校 5年
関谷 翔

「翔四十六秒七。」

入江先生の大きな声が聞こえてきた。ほくは今、四年生の夏からの夢だった県の水泳大会に出て記録を残すために練習を重ねている。(中略)

キラキラした水面は「よう、また来たか。」と歓迎してくれる。水の中に入ると兄弟の様に心が通じあう気がする。

水の中にスリと飛び込む。まるで、はくがするとい針で水が大きなやわらかい布の様だ。そして、はくは、ぐいぐいとうき進んでいく。大きな布がはくはの思いおりになっていく。な直線が引かれていく。細かい水しぶきが、つばい上がつて、水がはくを後押ししてくれるのが分かる。抜粋

水泳の県大会の目標に向かって懸命に練習する様子。水泳を始めたきっかけやお母さんのさりげない支えなどが、大変いきいきと描かれた優れた文章です。水泳の時の水の描写は、翔さんの水泳に賭ける意気込みや葛藤、水泳を楽しんでいる様子、繊細な感受性が巧みに書かれています。日常的な話題をこれほど自然に、それについて書き手の思考と感受性が上手に書けているところに感心しました。

賞 社団法人日本児童文芸家協会 会長賞

『あなたが世界を変える日』を読んで

愛媛県 今治明徳中学校 1年
井川 瑚都

信じられませんか。勉強不足で何一つ知らず無関心だった私。地球上の環境破壊や戦争、飢餓問題など、テレビや新聞の中だけの世界、遠い外国の関係ない話としか思っていまへんでした。同じ十二歳どうしなのに、セヴァと私は大違いです。

この本に出会うまで、世界なんて大きなものどうせ変えられない、自分一人では何もできない、どうしようもない、と考えていた私を、今は恥ずかしく思います。(中略)

「地球の病氣」は、地球に住む私達が作ったもの。ならば、治すのも私達しかいないのです。これ以上の進行を食い止めることは、世界中の人々の努力があれば、可能なのではないでしょうか。抜粋

同じ年齢であるセヴァンの「伝説のスピ」に感化され、「何も始めないうちから諦めてはいけないんだ」「声を出して自分の意見を伝えていくこと、自然によつて生かされている自分をいつも感じていることから始めるのではないかと、瑚都さんは等身大の結論を導き出しました。

ふと、身近な今治の海に目を移したとき、目の前の景色が違って見えたことから、環境問題が他人事ではないことに気がきます。「自分にも何かができる」と考える、フワフワくして「瑚都さんが一冊の本と出会つて境界が少し広がった様子がよく伝わってきます。」

賞 中央出版株式会社 社長賞

憲法九条を変えないで

兵庫県 愛徳学園小学校 4年
和佐 夏希

もし、憲法九条が変えられてしまったらどうなるのでしょうか。(中略)

今日、テレビで長崎原爆く記念式典を見ました。外はとても暑いように、出席されている方々は、じつと前を向いたままだしう。安倍首相が「平和を守ることをちかう。」とおっしゃっていました。たしか広島の時もおっしゃっていました。私ははるきり覚えてます。じつうか約束の国には守つて下さい。日本を戦争でなく国にしたいのです。いふ器を持たないで下さい。抜粋

夏希さんはテレビのニュースなどの時事問題に注目し、そこから憲法について知りたいことと子どもにつたえる日本国憲法を読むことにします。

自分の考えを謙虚に、素直に述べられており、夏希さんの真つ直ぐな訴えが、ずしりと伝わってくる作品です。平和に対し、真摯に向き合う大人の姿勢を問われている気がします。

賞 優秀賞

パパとママをひとりじめ

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 1年
杉田 響佳

カッコよさ

千葉県 八千代松陰中学校 3年
寺本 将樹

本当の幸せ

愛知県 碧南市立東中学校 2年
増本 雅子